

一般社団法人 名古屋工業会
2025年度定期総会・会員総会

日 時：2025年5月24日(土) 午後2時00分

場 所：メルパルク名古屋



一般社団法人 名古屋工業会

2025年度 定期総会 次第

1. 議 事

(決議事項)

第1号議案 2024年度事業報告及び収支決算報告について

第2号議案 2025年度事業計画案及び収支予算案について

第3号議案 代議員の選任について

第4号議案 役員の選任について

(報告事項)

第5号議案 その他

2025年度 会員総会 次第

1. 理事長挨拶 一般社団法人名古屋工業会理事長

2. 会長挨拶 国立大学法人名古屋工業大学学長

3. 報告事項 定期総会での決議事項の報告

4. 行 事

イ 叙勲受章者へ記念品贈呈（敬称略）

甲村和三

ロ 名古屋工業大学卒業満70、60、50、40周年の会員へ記念品贈呈（敬称略）

(70年—昭和30年卒) —31名

C 栗山剛志 始4名	A 平田仁史 始4名	M 岡田秀幸 始6名	E 不破幸雄 始3名
W 水谷 正 始4名	D 友松英爾 始4名	Y 島田晴人 始2名	K 吉岡輝雄 始4名

(60年—昭和40年卒) —109名

C 松井健二 始12名	A 荒木利貞 始8名	M 川嶋紘一郎 始31名	E 小沢 容 始6名
W 市橋洋志 始11名	D 水谷栄一 始10名	Y 片岡宏治 始6名	K 河辺 彰 始12名
F 宇佐美貞夫 始8名	B 北村健治 始5名		

(50年—昭和50年卒) —61名

C 北川貴志 始4名	A 吉村 尚 始7名	M 藤本靖孝 始8名	E 大森 正 始8名
Es 河合 章 始2名	W 木下隆利 始2名	D 磯野恵一 始7名	G 西川嘉一 始3名
Y 尾野吉則	K 浅野幹雄 始7名	F 寺倉 修 始6名	B 仁科 健 始6名

(40年—昭和60年卒) —92名

C 藤田素弘 始13名	A 藤林喜美	M 永田武司 始18名	E 三宅正人 始12名
Es 向坂直久 始8名	W 鯉江和俊 始4名	D 伊藤龍美 始15名	G 小竹健司 始3名
Y 浅野俊介 始6名	K 富川貴志 始2名	F 浅野啓三 始6名	B 柳瀬 昇 始2名
J 吉田豊子 始2名			

ハ 特別講演

講師：渡辺研司 氏 名古屋工業大学 社会工学科（経営システム分野）教授

演題：「重要インフラに求められるサイバー・フィジカルセキュリティ

～地域内プロフェッショナル連携で日本を牽引する中部・東海地域～」

5. 懇親会

第3号議案 代議員の選任について
第4号議案 役員の選任について

2025年度 役員名簿

理 事(10)	横山裕行	K49	○ 藤本英雄	院M47
	○ 入矢桂史郎	C52	堀口大輔	C59
	○ 太田宏和	FB②	河邊伸二	A59
	仁科 健	B50	名和修司	C59
	大鑄史男	F49	小山裕康	A54
監 事(2)	森 秀樹	D52	川村信之	E53
相談役(9)	藤原俊朗	K31	牛込 進	Y33
	篠田陽史	M33	二杵幸夫	K39
	木越正司	C44	水嶋敏夫	M42
	岡崎格郎	A46	内藤克己	A43
	加川純一	K49		
参 与(3)	北村 正	Es48	森川民雄	W45
	大鹿秀正	F47		
顧 問(6)	宇佐美貞夫	F40	北村健治	B40
	加藤作次	C40	伊藤要蔵	B42
	清水益文	F44	水谷尚美	D42
支部長(22)				
北海道	山平英夫	C43		
東 北	羽鳥明満	C57		
東 京	○ 入矢桂史郎	C52		
甲信越	若林俊樹	M56		
静 岡	石塚基一郎	C54		
三 河	○ 太田宏和	FB②		
名古屋	○ 藤本英雄	M47		
尾 張	小久江智之	M53		
岐 阜	各務剛児	C53		
北 陸	○ 加戸孝太郎	B49		
三 重	○ 真弓明光	C59		
大 阪	堀口大輔	C59		
兵 庫	○ 當舎良章	SC③		
岡 山	野村幸宣	C54		
広 島	大田一夫	C47		
山 口	岸田潤三	C58		
山 陰	糸賀輝穂	C51		
香 川	藤川 智	E52		
徳 島	福井雅彦	A52		
愛 媛	馬越陽一郎	C58		
高 知	山崎健司	A54		
九 州	吉村 尚	A50		

○:新任候補者

代議員(94)				
北海道(1)	佐川正人	C53		
東 北(1)	鈴木 聡	C57		
東 京(7)	○ 永田尚人	C57	○ 鈴木孝彦	A59
	三浦太朗	EC⑬	大久保智明	D57
	戸澤宏一	M55	飯沼義昭	B46
	北村明弘	K53		
甲信越(2)	若林俊樹	M56	樋口 順	C48
静 岡(2)	玉木利幸	C52	向坂直久	Es60
三 河(12)	川口貴弘	F⑮	神谷貴臣	ZW⑩
	沼澤成男	M59	岩田忠三	M59
	佐藤文昭	ZK⑤	出崎 亨	K61
	○ 太田宏和	FB②	○ 辻 朋之	ES⑥
	○ 森山 誠	ZY⑯	北 朋弘	FB⑥
	伊藤雅幸	D⑨	小川寛徳	D⑤
名古屋(30)	山口 啓	C49	兼岩 孝	C54
	藤田素弘	C60	○ 坂本敏彦	SC①
	○ 佐藤正裕	SC②	杉戸厚吉	A53
	○ 杉澤和男	A55	○ 中藺昭彦	A58
	富田庸公	Mb①	武内博明	Mb①
	○ 岩塚真之	E56	青木 睦	EJ④
	○ 松井俊浩	EJ⑦	○ 泉地正章	W44
	○ 伊藤哲夫	W45	吉木 満	W56
	中野達夫	G50	○ 村瀬由明	D53
	伊藤龍美	D60	野々山尚志	Y63
	橋本 忍	ZY②	横山雅行	K52
	○ 山中諭	K56	○ 前田千芳利	K57
	守田賢一	F47	西村良博	F48
	大鑄史男	F49	○ 松原剛宏	B61
	横山淳一	FB⑥	○ 松尾啓志	J58
尾 張(8)	伊藤美保	D44	○ 山中昭廣	Y44
	小久江智之	M53	山口初一	E56
	大竹昌志	C54	○ 伊藤彰啓	D58
	魚住弘一	D53	○ 古川輝久	D59
岐 阜(7)	桐井光人	C59	田中清之	A54
	堤 喜治	M45	田中秀和	Es48
	山田孝夫	W48	笹島 康	Y39
	兼松克司	K42		
北 陸(2)	黒田 茂	M47	吉岡正盛	B58
三 重(4)	里 宏幸	C56	○ 伊藤利浩	D④
	新堂紳一郎	C58	満仲朗夫	C59
大 阪(5)	川越英二	E47	坪田博隆	M51
	西川嘉一	G50	小山 明	A59
	○ 出口義国	G57		
兵 庫(2)	西川芳久	C47	○ 植田康之	M⑩
岡 山(2)	虫明正博	K59	○ 佐々木秀臣	SU⑥
広 島(1)	○ 田頭 豊	M47		
山 口(1)	川上為夫	W42		
山 陰(1)	湊口民弥	A52		
香 川(1)	前川浩一	SC⑩		
徳 島(1)	福井一博	A46		
愛 媛(1)	小松浩樹	CM⑳		
高 知(1)	山内 健	C53		
九 州(2)	平野富広	F58	吉村 尚	A50

退任役員

理 事 浅井英利 E58 岩田忠三 M59

参 与 張田吉昭 M43

顧 問 河 辺 彰 K40

支部長

（東京） 浅井英利 E58
（三河） 岩田忠三 M59
（名古屋） 小山裕康 A54
（北陸） 竹田敏洋 B41
（三重） 里 宏幸 C56
（兵庫） 高柳 誠 C60

代議員

（東京）	入矢桂史郎	C52	鹿島 孝	A59		
（三河）	澤田義政	K63	服部和弘	E62	大野一成	ZK⑤
（名古屋）	和田亮一	C62	井澤知旦	A51	三宅正人	E60
	森川民雄	W45	犬塚正憲	D48	小坂井孝生	K49
（尾張）	服部重夫	Y43	小木曾春美	M55	大塚孝信	CS②⑧
（三重）	浅野俊介	Y60			犬塚信博	J62
（大阪）	堀口大輔	C59				
（兵庫）	當舎良章	SC③				
（岡山）	小倉俊彦	A58				
（広島）	大田一夫	C47				

2024年度（令和6年度）事業報告

はじめに

2024年度は名古屋工業会役員任期の2年目となることから、安定した事業運営を行うことができた。

5月の定期総会では、小畑新学長をはじめ理事、監事など大学から多数の役員が来賓出席され、大学との信頼関係が強化された。

10月に開催した支部長会議においては、会誌「ごきそ」の配布により把握した会員情報の支部への共有や支部開催行事への参加者の増加の取組みなどの意見交換を行った。

各支部総会には可能な限り役員が出席し、工業会や大学の動きを伝えるとともに支部の現状や課題の把握に努めた。

会員の現況を把握するため、リニューアルした会誌「ごきそ」を正会員全員に配布した。併せて会員証の改正などの見直しを行った。

単科会との連携会議は、会誌「ごきそ」の原稿依頼等、内容充実への協力依頼や名簿データベースの在り方など、種々の意見交換を行うことができた。

今回で3回目となった工大祭期間中の「名工大歴史館」の開館では、多数のチラシ配布や各所での宣伝により、前年を上回る350人を超える来館者があり、名工大の歴史に触れることができた。

財政について、大学の入学手続きのWEB化に伴う新入生からの終身会費の納入手続きの変更について、情報収集、大学との調整など工業会として適切に対応した。

令和6年（2024年）奥能登豪雨災害に際し、名工大基金を通じて北川教授によるインスタントハウスに寄付を行うとともに、各支部への情報提供を行った。

1 大学支援事業

(1) 海外研修・留学への支援

国際化推進事業支援（国際的に通用する人材の育成・大学の国際化支援）

2024年度に海外研修・留学のために14か国1地域に渡航した49名の学生を支援した。

(2) 教育研究への支援（大学の教育研究活動に対する支援）

ア OB・OGトップセミナーの開催

アンリツ株式会社先端技術研究所長 理事 CT0の野田華子氏を迎え、「学び続ける」を演題として自分の希望した仕事と違っていても将来必ず役立つので学び続けよ、という内容で260名の学生に対し講演を行った。この講演は、学部2年生必修科目の「産業論」の授業の一環としても位置付けられている。

イ 公開講座の開催

名古屋支部が大学に協賛し、「日本城郭史上の名城（犬山城と名古屋城）と名古屋の都心まちづくり」と題するテーマで公開講座を開催し、総勢82名の参加があった。

ウ 学生論文賞の授与

若手研究者支援として、今年度3回目となった「学生Q1ジャーナル賞（学生論文賞）」（Q1ジャーナルとは、国際的な学術雑誌の影響力の評価で、上位1/4に入るもの。）において、優れた研究成果を上げた大学院生7名を表彰した。

エ 定年退職教職員の表彰

永年にわたり、国立大学法人名古屋工業大学に勤務し、大学の発展に貢献した教職員15名に、その功績をたたえ感謝状と記念品を贈呈した。

(3)学生支援（学生の人材育成に対する支援）

ア 名古屋工業会賞の授与

学長から推薦があった成績優秀な19名の卒業生に名古屋工業会賞として表彰状と記念品を贈呈した。

イ 経済的に支援を必要とする者への給付型奨学金の授与

経済的に支援を必要とする8名（各学年2名）の学部学生に対し、名古屋工業会給付型奨学金を継続して支給した。

ウ 留学生後援会への支援

外国人留学生の交流事業や修学援助及び生活支援のため、外国人留学生後援会を支援した。

エ 挑戦的課外活動団体への支援

高い目標に積極的に挑戦している15の課外活動等団体を支援した。また、そのうち4団体については10月に開催した支部長会議の場において、その活躍、活動内容及び今後の目標などの報告を行った。

オ 工大祭への支援

62回目となった工大祭（大学祭）を支援した。

カ 鶴桜会への支援

名古屋工業大学女性卒業生で組織する鶴桜会（OG会）に支援を行った。

キ 学生学生（学生会員）

学生の就職・キャリア支援のため、各単科会が開催する講演会、セミナー、懇話会等に対し支援を行った。

ク 在学生及び保護者に対する大学の各種情報提供

会誌「ごきそ」秋号を学生会員に配布し、学生及び保護者への情報提供を行った。

（2-(2)-ア-（ア）～（ウ）参照）

ケ 学生の海外研修・留学への支援（再掲）

1-(1)参照

(4)大学基金への寄付、協力

令和6年（2024年）奥能登豪雨災害に際し、名工大基金を通じて北川教授によるインスタントハウスに寄付を行うとともに、各支部への情報提供を行った。

「名工大歴史館」来館者に、大学基金への寄付を促すとともに、各支部総会における

パンフレットの配布等により大学基金への寄付を呼びかけた。

2 名古屋工業会の充実のための事業

(1) 会員増強活動

ア 会員拡大に向けた支援

各支部開催の行事において、正会員だけでなく登録会員(非会員)の参加についても行事支援を行うことにより、入会の契機をつくり会員拡大に向けた取り組みを行った。

イ 卒業生への活動

学位記授与式において、工業会賞を授与するとともに理事長が卒業生・修了生に対しメッセージを伝えた。

ウ 新入生への活動

新入生の父母に対し、名古屋工業会の多岐にわたる活動内容を紹介し、未加入者への加入の呼びかけと全学同窓会である名古屋工業会の周知を図った。

エ 工大祭期間中の「名工大歴史館」において、在学生、卒業生などの来館者に大学とともに名古屋工業会への理解を深めてもらった。

オ 正会員の状況

(ア) 新規入会者

新入学生（一括納付による終身会員）

2024年度 913名 2023年度 897名 2022年度 854名

2021年度 882名

卒業生等

終身会員 60(21)名、年度会員5(5)名、合計65(26)名

(イ) OBの2024年末の会員状況

対象者 72、329(71、414)名

正会員 20、828(19、960)名

(内訳 終身会員18、427(17、495)名、年度会員2、401(2、465)名)

会員入会率28.8(27.9)%

カ 在学生への活動

OB・OGトップセミナーの開催（再掲）

1-(2)-ア参照

挑戦的課外活動団体への支援（再掲）

1-(3)-エ参照

(2) 活性化活動

ア 会員交流及び広報活動

(ア) 会誌「ごきそ」の発行

デザインを大幅にリニューアルするとともに、年6回の発行を4回とし、内容の充実、ホームページとの役割分担を図った。

(イ) 会誌「ごきそ」の郵送配布

会誌「ごきそ」の年4回発行のうち1回（秋号）を正会員全員に郵送し、同封した異動情報はがきの返信により、会員の現況を把握し、また、その情報を各支部及び卒業生連携室等に還元できるようにした。

(ウ) 会員カードの様式変更

従来のプラスチック製の会員カードを紙製に様式変更し、会誌「ごきそ」とともに毎年郵送することにより、経費の節減と管理作業の軽減を図った。

(エ) ホームページを利用した情報提供の見直し

閲覧者がリアルタイムで情報入手できるよう迅速に記事を掲載した。

(オ) 各単科会情報の掲載

各単科会からの依頼にもとづき、各単科会の記事をホームページに掲載した。

(カ) 支部活動情報の掲載

各支部における活動情報の提供を呼びかけ、ホームページの各支部の活動に関する情報を積極的に掲載した。

(キ) 会員情報・優待制度の充実

新たに名古屋市美術館と協定を結び、学生及び教職員が無料で入館できるよう優待制度を新設した。また、従来からの優待制度に関しても、ポスター作製などで広報活動を行い利用率の向上を図った。

イ 支部活動

(ア) 支部長会議の開催

10月に、小畑学長の来賓出席を得て支部長会議を開催し、22支部中20支部が出席した。会誌「ごきそ」の配布により把握した会員情報の支部への共有や支部開催行事への参加者の増加の取り組みなどの意見交換を行った。

(イ) 支部総会への役員派遣について

各支部で開催された支部総会に本部役員を可能な限り派遣し、大学や工業会の動きを伝えるとともに支部の現状や課題などの把握に努めた。

ウ 総会時の特別講演会について

定期総会・会員総会時に種村眞幸名誉教授を講師として「ナノの世界と現実の世界のはざままで・・・～ナノサイズの材料の環境に優しい合成と実用化～」の演題で、実生活でも多くのところで活用されているナノ技術についての特別講演会を開催した。

エ 記念品の贈呈

(ア) 叙位叙勲者への記念品贈呈

叙位叙勲者に記念品贈呈を行った。

旭日単光章 玉田 欽也

旭日中綬章 伊藤 周雄

瑞宝中綬章 辻田 義治

(イ) 卒業後、満数十年者への記念品贈呈

卒業満70年35名、60年89名、50年80名、40年120名の周年記念に該当する正会員に記念品贈呈を行った。

オ 各単科会を含む会友との連携

全学同窓会として、単科会との連携強化をめざし「単科会との連携会議」を開催した。会誌「ごきそ」の原稿依頼等、内容充実への協力依頼や名簿データベースの在り方など、種々の意見交換を行うことができた。

カ 鶴桜会の支援（再掲）

1－(3)－カ参照

3 全学同窓会としての取り組み

(1) 工大祭開催期間中における「名工大歴史館」の開催

2022年度に始めた工大祭期間中の「名工大歴史館」については、3回目となり、大学の卒業生連携室と共催し、1、200枚を超えるチラシの配布、各所での宣伝活動行うなどにより、前回は大きく上回る350人を超える来館者があった。

(2) 会員増強活動として「登録会員」の行事参加への支援（再掲）

2－(1)－ア参照

(3) 単科会との連携会議の開催（再掲）

2－(2)－オ参照

4 名古屋工業会の将来に向けた基盤整備

(1) 財政について

ア 新入生からの終身会費の継続的な収納の確保

大学入学手続きのWEB化に伴う新入生からの終身会費の納入手続きの変更について、情報収集、大学との調整など工業会として適切に対応した。

イ 工業会館跡地の利用

名古屋工業会館跡地に設置した駐車場の運用状況を把握し、必要な調整を行った。

(2) 組織体制の整備

ア 役員体制の整備

昨年度からの理事長1名、副理事長4名、常務理事1名、理事3名、監事2名の執行部体制で2年目を迎え、安定した名古屋工業会運営を行うことができた。

イ 役員交代について

相談役及び顧問に新しく役職に御就任いただき、今後の工業会の方針、活動などに関しての相談体制を整えた。

ウ 事務局体制について

事務局体制の継承のため、大学との調整を行った。

(3) データベースの整備

新入生の新規の会員の情報及び会誌「ごきそ」の郵送に伴う異動情報等をデータ入力し、各支部との情報共有を図った。

(4) 危機管理体制について

各種災害のリスクに備えるため、大学が実施する防災訓練などに積極的に参加した。
令和6年（2024年）奥能登豪雨災害に際し、名工大基金を通じて北川教授によるインスタントハウスに寄付を行うとともに、各支部への情報提供を行った。（再掲）

5 大学との連携活動について

(1) 卒業生連携室の協力による「単科会との連携会議」の開催（再掲）

2-(2)-オ参照

(2) 卒業生連携室との共催による「名工大歴史館」の開催（再掲）

3-(1)参照

(3) 卒業生連携室との異動情報の共有（再掲）

2-(2)-ア-（イ）参照

(4) 大学基金への寄付を呼びかけるリーフレットの配布（再掲）

1-(4)参照

2024年度収支決算書(案)

(2024年4月1日から2025年3月31日)

1. 収入の部

(単位:円)

勘 定 科 目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	5,605,508	5,815,000	△ 209,492
(1) 財産利子収入	1,739,708	1,650,000	89,708
(2) 会誌広告収入	51,000	350,000	△ 299,000
(3) 駐車場賃貸収入	3,814,800	3,815,000	△ 200
(4) 寄附金収入	0	0	0
2) 入会金, 会費収入	76,482,000	74,170,000	2,312,000
(1) 入会金収入	37,000	30,000	7,000
(2) 年度会費収入	1,385,000	2,000,000	△ 615,000
(3) 終身会費収入	74,940,000	72,000,000	2,940,000
(4) 賛助会費収入	120,000	140,000	△ 20,000
3) 雑収入	42,028	40,000	2,028
(1) 雑収入	42,028	40,000	2,028
4) 積立預金取崩収入	0	0	0
5) 前期繰越収支差額	948,000	948,000	0
(1) 前期繰越収支差額	948,000	948,000	0
収入の部合計	83,077,536	80,973,000	2,104,536

注1 ごきそ広告方法の変更に伴い広告募集を停止

注2 年度会員から終身会員への移行

注3 学部生・大学院生の入会の増、注2の年度会員から終身会員への移行

2. 支出の部

(単位:円)

勘 定 科 目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業費	57,607,669	54,800,000	2,807,669
(1) 大学支援事業	28,039,634	28,050,000	△ 10,366
ア 教育研究支援	2,335,310	2,350,000	△ 14,690
イ 学生支援	25,504,324	25,700,000	△ 195,676
ウ その他支援	200,000	0	200,000 注1
(2) 工業会の充実のための事業	28,052,717	25,250,000	2,802,717
ア 会員増強活動	7,740,073	6,800,000	940,073 注2
イ 広報活動	8,606,759	8,000,000	606,759 注3
ウ 支部活動	9,437,766	9,000,000	437,766
エ 会員慶弔	2,218,119	1,400,000	818,119 注4
オ 講演会	50,000	50,000	0
(3) 収益事業	1,515,318	1,500,000	15,318
ア 駐車場賃貸	1,515,318	1,500,000	15,318
2) 管理費	20,648,869	21,100,000	△ 451,131
(1) 総会経費	2,857,887	3,100,000	△ 242,113
(2) 管理諸経費	17,790,982	18,000,000	△ 209,018
3) 積立預金繰入支出	4,000,000	5,000,000	△ 1,000,000
(1) 指定定期預金及債権(終身会費)	4,000,000	5,000,000	△ 1,000,000 注5
4) 次期繰越収支差額	820,998	73,000	747,998
(1) 次期繰越収支差額	820,998	73,000	747,998
支出の部合計	83,077,536	80,973,000	2,104,536

注1 令和6年奥能登豪雨被災地への簡易住宅設置支援金

注2.3 ごきそリニューアル・全正会員への配布に伴い関連費用の増加、入会案内等の作成

注4 卒業周年の記念品の支払に関する時差

注5 注2.3により、関連費用が増加したため

正味財産増減計算の部

2025年3月31日

(1) 増加の部

(単位：円)

	勘定科目	決算額	備考
資産の増加	当期繰越収支差額	820,998	
	減価償却積立金増加額	229,218	
	退職給与引当預金増加額	400,000	
	終身会費引当預金増加額	4,000,000	
増加額合計		5,450,216	

(2) 減少の部

	勘定科目	決算額	備考
資産の減少	前期繰越収支差額	948,000	
	構築物償却費	218,218	
	什器備品償却費	11,000	
負債の増加	退職給与引当金増加額	400,000	
	終身会費引当金増加額	4,000,000	
減少額合計		5,577,218	
当期正味財産増減額		△ 127,002	
前期繰越正味財産額		243,572,392	
期末正味財産合計額		243,445,390	

貸 借 対 照 表

2025年3月31日

1. 資産の部

(単位：円)

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	小 科 目		
流 動 資 産	現 金 預 金	116,972,196	
流 動 資 産 合 計 (A)			116,972,196
固 定 資 産 特 定 財 産	調 査 研 究 助 成 積 立 預 金	10,565,784	
	減 価 償 却 積 立 預 金	4,814,580	
	退 職 給 与 引 当 預 金	4,555,191	
	特 別 修 繕 引 当 預 金	10,361,624	
	終 身 会 費 引 当 預 金	14,000,000	
特 定 財 産 合 計 (B)			44,297,179
そ の 他 固 定 資 産	土 地	33,524,344	
	構 築 物	1,657,692	
	什 器 備 品	65,157	
	投 資 有 価 証 券	75,844,607	
	差 入 保 証 金	100,000	
そ の 他 の 固 定 資 産 合 計 (C)			111,191,800
固 定 資 産 合 計 (D) = (B) + (C)			155,488,979
資 産 合 計 (E) = (A) + (D)			272,461,175

2. 負債の部

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	小 科 目		
流 動 負 債	預 り 金	43,530	43,530
固 定 負 債	受 入 保 証 金	55,440	
	退 職 給 与 引 当 金	4,555,191	
	特 別 修 繕 引 当 金	10,361,624	
	終 身 会 費 引 当 金	14,000,000	
固 定 負 債 合 計 (G)			28,972,255
負 債 合 計 (H)			29,015,785

3. 正味財産の部

当期正味財産増加額		△ 127,002
正 味 財 産 (I)		243,445,390
負債及び正味財産合計 (J) = (H) + (I)		272,461,175

財 産 目 録

2025年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額	
(資産の部)		
Ⅰ. 流 動 資 産		
1. 現金	750,576	
2. 普通預金（三菱UFJ銀行）	96,612,183	
3. 当座預金（ゆうちょ銀行）	18,609,437	
4. 定期預金（三菱UFJ銀行）	1,000,000	
流動資産合計	116,972,196	116,972,196
Ⅱ. 固 定 資 産		
1. 特定資産		
(1) 国 債 （野村證券）	44,297,179	
特定資産合計	44,297,179	44,297,179
2. その他の固定資産		
(1) 土地 狭間町4番3 515.35 m ²	33,524,344	
(2) 構築物	1,657,692	
(3) 什器備品	65,157	
(4) 国 債 （野村證券）	55,702,821	
(5) なごやか市民SDGs未来債（野村證券）	20,000,000	
(6) 金銭信託（みずほ信託銀行）	141,786	
(7) 差入保証金（八重洲倶楽部）	100,000	
その他の固定資産合計	111,191,800	111,191,800
固定資産合計	155,488,979	155,488,979
資 産 合 計	272,461,175	272,461,175
(負債の部)		
Ⅰ. 流 動 負 債		
預り金	43,530	
流動負債合計	43,530	43,530
Ⅱ. 固 定 負 債		
受入保証金	55,440	
退職給与引当金	4,555,191	
特別修繕引当金	10,361,624	
終身会費引当金	14,000,000	
固定負債合計	28,972,255	28,972,255
負債合計	29,015,785	29,015,785
正味財産		243,445,390

監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 横山 裕行 殿

2024年4月1日から2025年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行、事業報告及び計算関係書類に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況等について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。以上の方法に基づき当該事業年度に係る事業報告書について検討致しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算関係書類（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書）について検討致しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告書の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2025年4月18日

一般社団法人 名古屋工業会

監事 森 有樹 

監事 川村 信之 

2025年度（令和7年度）事業計画（案）

はじめに

2025年度は、横山理事長を中心とする役員体制が2期目に入る。支部長交代による新たな役員を迎え入れ、1期目の活動を踏まえた新たな取り組みを行う。

大学においても小畑学長が2年目を迎え、大学との密接な連携のもと大学支援、学生支援を行い、信頼関係を深めるとともに、工業会の安定的な運営に努める。

名古屋工業会が「全学同窓会」として、全卒業生を包含する同窓会をめざし、若手会員の結集、職域活動の活性化、登録会員（非会員）の参加拡大などを進める。

交流イベントへの若手会員、学生会員の参画を通じて会員意識の向上を図るとともに工業会の存在感を高める。

会誌「ごきそ」の正会員全員への郵送と異動情報の収集について、実施方法を精査し会員の現況情報収集の精度の向上を図る。また、ホームページの活用の拡大、登録会員（非会員）への配慮など検討する。

支部活動充実のため、支部長会議を開催する。

正会員への入会の契機をつくるため、「登録会員」の各支部行事への参加について、行事支援金の支出を行う。

財政の安定化のため、工業会への寄付窓口について、検討する。

名簿データの一元化をめざし、大学卒業生連携室等、関係者と協議する。

「名工大歴史館」を開催し、名古屋工業会及び大学を広報し、特に在学生、父母及び卒業生に対し、名古屋工業会への理解を深めてもらう活動を行う。

単科会との連携会議について引き続き開催し、共通する諸課題についてさらに検討を深める。

大学の寄付活動については、引き続き各場面で積極的な協力を行っていく。

1 大学支援事業

(1) 海外研修・留学支援

国際化推進事業支援（国際的に通用する人材の育成・大学の国際化支援）として、グローバル人材を育てることを目的に、海外研修・留学する学生への支援を行う。

(2) 教育研究支援（大学の教育研究活動に対する支援）

ア 大学が実施する公開講座について、講師を派遣する。

イ 定年退職教職員の功績をたたえ、感謝状と記念品の授与を行う。

(3) 学生支援（学生の人材育成に対する支援）

優秀な学生への名古屋工業会賞の授与を行う。

(4) 経済的支援

大学生活での経済的支援を必要とする学生への給付型奨学金の授与を行う。

(5) 課外活動団体への支援

課外活動の活性化を支援するとともに名古屋工業会の認知度を上げるため、挑戦的課外活動団体支援を行う。

(6) 就職活動への支援

各単科会が実施する学生(各単科会の関係する学科・専攻の学生)の就職・キャリア支援のための講演会、セミナー、懇話会等に対し支援を行う。

(7) 外国人留学生支援

外国人留学生の交流事業や修学援助及び生活のための支援を行う。

(8) 鶴桜会への支援

女性卒業生の団体、鶴桜会（OG会）活動への支援を行う。

(9) OB・OGトップセミナーの開催

先輩の人生、職業を知る重要な機会として、また、大学で開講されている必修科目授業「産業論」とも連携し、大企業の幹部職員等を講師に招き「OB・OGトップセミナー」を開催する。

(10) 名工大歴史館の開催

工大祭期間中に今年で4回目となる「名工大歴史館」を開催し、大学及び名古屋工業会の歴史を紹介し、在学生、卒業生、父母等に、名古屋工業会活動への理解を深めてもらう。

(11) 大学基金への寄付

大学が進める大学基金の募金活動に積極的に協力する。

(12) その他

大学支援、学生支援にあたっては、工業会の認知度を高めるとともに、学生会員等に会員意識を自覚できるよう配慮する。

2 名古屋工業会充実のための事業

(1) 会員増強活動

ア 卒業式、入学式等大学のイベントにおける入会活動など、在学生、卒業生に様々な機会をとらえて入会勧誘を行う。

イ 各単科会イベント、各支部における行事等において、登録会員（非会員）への入会勧誘を行うとともに、入会の契機をつくるため、「登録会員」の各支部行事への参加について、行事支援金の支出を行う。

ウ 2025年度入学者から開始された、大学の入学手続きのWEB化に伴う新入生からの終身会費の納入手続きの変更について、引き続き情報収集、大学との調整などを行う。

エ 「名工大歴史館」の開催（再掲）

1－(10)参照

(2) 活性化活動

ア 会員交流及び広報活動

- (ア) 会員交流の場としての会誌「ごきそ」について、年4回、発行するとともに、そのうちの1回を正会員全員に郵送する。特に学生会員の父母等への配布については、工業会活動を周知し、情報提供のサービスを図る。
- (イ) 会誌「ごきそ」の配布後の異動情報の収集について、実施方法を精査し会員の現況情報収集の精度の向上を図る。最新の会員情報について各支部への情報提供を行う。
- (ウ) ホームページを積極的に活用し、各支部の最新の話題・情報の提供、各単科会の話題の掲載など、リアルタイムで情報の提供を行っていく。ホームページの各ページへのアクセスについては、登録会員（非会員）の便宜についても配慮する。
- (エ) 美術館等への入館支援については、入館実績を精査し、適切に見直す。
- (オ) 挑戦的課外活動団体への支援（再掲）
1－(5)参照
- (カ) 卒業式、入学式等大学のイベントにおける入会活動（再掲）
2－(1)－ア参照

イ 支部活動等

- (ア) 支部活動について、各支部の「多様性」に配慮しながら、引き続き財政等を通じた支援を行う。
- (イ) 支部長会議を開催し、本部と支部、支部と支部の対話の機会を設けるとともに、支部総会には可能な範囲で本部役員を派遣し、本部及び大学等の情報の提供を行う。
- (ウ) 「登録会員」の支部行事参加への支援（再掲）
2－(1)－イ参照

ウ 各単科会を含む会友との連携

単科会との連携会議を開催し、支援や要望についての意見の聴取と共通の課題についての連携の強化を図る。

3 全学同窓会の取り組み

- (1) 交流イベントへの若手会員、学生会員の参画を通じて会員意識の向上を図る。
- (2) 「登録会員」の支部行事参加への支援（再掲）
2－(1)－イ参照
- (3) ホームページの活用の拡大、「登録会員」（非会員）への配慮など、検討する。
（再掲）
2－(2)－ア－(ウ)参照
- (4) 各単科会との連携会議の開催（再掲）
2－(2)－ウ参照

- (5) 会誌「ごきそ」の郵送を利用した会員異動情報の収集及び情報提供（再掲）
2-(2)-ア-（イ）参照

4 名古屋工業会の将来に向けた基盤整備

(1) 財政について

- ア 「指定期預金及び債権（終身会員）」（終身会員の将来に向けた活動を確保するための積立）について、積み立てに努める。
- イ 中長期的な会費収入の在り方について必要な検討を行う。
- ウ 工業会への寄付窓口について、検討する。
- エ 名古屋工業会館跡地に設置した駐車場の運用について、業者側と必要な調整を行う。
- オ 終身会費を含む諸納金の集金方法について、情報収集、大学との調整を行う。
（再掲）

2-(1)-ウ参照

- カ 一般社団法人として、適切な法人会計について継続的に検討する。

(2) 組織体制の整備

- ア 名古屋工業会の安定的な運営に努め、2年目となる名古屋工業大学の小畑学長体制との関係性をより良いものにしていく。
- イ 大学の人事異動に伴い新たな事務局長を迎えたことから、業務の継続性を確保するとともに、事務の改善に努める。

(3) データベースの整備

名簿データの一元化をめざし、大学卒業生連携室等、関係者と協議する。

5 大学との連携活動の充実

- (1) 卒業生連携室等と連携し、会員の異動情報の共有などデータベースの整備に努める。
- (2) 理事長のステークホルダー会議などへの出席を通して、大学との信頼関係を深める。
- (3) 大学執行部との意思疎通に努め、大学との連携強化を図る。
- (4) 大学基金への寄付（再掲）

1-(1)参照

6 その他

名古屋工業大学は、第4期中期目標期間の基本的な目標として、「心で工学」を実践し、「中京地域産業界との共創」を進めている。大学が進める各種行事について、名古屋工業会の同窓会ネットワークの活用などを通じて大学に協力し、良好な信頼関係の維持に努める。

2025年度収支予算書(案)

(2025年4月1日から2026年3月31日)

1. 収入の部

(単位:千円)

勘 定 科 目	2025年度予算(A)	2024年度決算(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	5,620	5,605	15
(1) 財産利子収入	1,750	1,739	11
(2) 会誌広告収入	50	51	△ 1
(3) 駐車場賃貸収入	3,820	3,815	5
(4) 寄附金収入	0	0	0
2) 入会金, 会費収入	72,550	76,482	△ 3,932
(1) 入会金収入	30	37	△ 7
(2) 年度会費収入	1,400	1,385	15
(3) 終身会費収入	71,000	74,940	△ 3,940
(4) 賛助会費収入	120	120	0
3) 雑収入	40	42	△ 2
(1) 雑収入	40	42	△ 2
4) 積立預金取崩収入	0	0	0
5) 前期繰越収支差額	820	948	△ 128
(1) 前期繰越収支差額	820	948	△ 128
収入の部合計	79,030	83,077	△ 4,047

※ 2025年度借入限度額及び債務負担額についての該当事項はありません。

2. 支出の部

(単位:千円)

勘 定 科 目	2025年度予算(A)	2024年度決算(B)	増減(A-B)
1) 事 業 費	55,230	57,607	△ 2,377
(1) 大学支援事業	27,850	28,039	△ 189
ア 教育研究支援	2,350	2,335	15
イ 学生支援	25,500	25,504	△ 4
ウ その他支援	0	200	△ 200
(2) 工業会の充実のための事業	25,880	28,053	△ 2,173
ア 会員増強活動	7,500	7,740	△ 240
イ 広報活動	8,610	8,607	3
ウ 支部活動	9,400	9,438	△ 38
エ 会員慶弔	300	2,218	△ 1,918
オ 講演会	70	50	20
(3) 収益事業	1,500	1,515	△ 15
ア 駐車場賃貸	1,500	1,515	△ 15
2) 管 理 費	20,800	20,649	151
(1) 総会経費	2,900	2,858	42
(2) 管理諸経費	17,900	17,791	109
3) 積立預金繰入支出	3,000	4,000	△ 1,000
(1) 指定定期預金及債権(終身会費)	3,000	4,000	△ 1,000
4) 次期繰越収支差額	0	821	△ 821
(1) 次期繰越収支差額	0	821	△ 821
支出の部合計	79,030	83,077	△ 4,047

東海の邦のほまれに

土井晩翠作詩
青木 兎作曲

The musical score is written for piano and voice. It consists of six systems of music. The first system has two staves, with the upper staff for the voice and the lower for the piano accompaniment. The lyrics are written below the voice staff. The second system also has two staves. The third system has two staves, with the upper staff for the voice and the lower for the piano accompaniment. The fourth system has two staves. The fifth system has two staves. The sixth system has two staves. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings like *mf* and *f*.

1 め い じょう の お お ご ん の シャ チ かた
2 ちゅ う きょう の さ か え の さ と に いや

ど り し し る し を か ざ ー す せい
さ こう も と い を か す え ー し こう

1 しゅん の し て い い く ー ひゃ く いろ

2 ー ぎょう の お し え の こう しゃ と こ

ふ か き は な と に お ー わ ん じん
し え に そ の な た か ー め ん とう

ぶ ん の ひ か り ま ー す ま れ で
かい の く に の ほ ま れ に

1. 名城の黄金の鯨
象どりししるしをかざす
青春の子弟幾百
色深き花とにほはむ
人文の光増す迄

2. 中京の栄の郷に
いや栄ふ基を据えし
工業の教の校舎
とこしへに其名高めむ
東海の邦のほまれに